

◇先週の説教より

2017年3月5日(日)

「人々を恐れてはならない」

説教 疋田勝子牧師

旧約聖書 列王記上17章1～7節

新約聖書 マタイによる福音書10章26～33節

主イエスは、12人の弟子を選び、派遣しました。この時代に弟子を世に遣わすということ、主は、「わたしはあなたがたを遣わす。それは、狼の群れに羊を送り込むようなものだ」とたとえられました。イエスの命が脅かされようとしていた頃の話です。「わたしのために総督や王の前に引き出されて、彼らや異邦人に証しをすることになる。引き渡されたときは、何をどう言おうかと心配してはならない…言うべきことは教えられる。…わたしの名のために、あなたがたはすべての人に憎まれる。しかし、最後まで耐え忍ぶ者は救われる」(マタイによる福音 10:18～22) というメッセージは、弟子たちの恐れを取り除くためであったのです。言うべきことは聖霊によって教えられます。人間は弱い。キリスト者故に仲間はずれにされることを恐れ、事実を隠したくなる時があります。だが、主は、「人々を恐れてはならない…わたしが暗闇であなたがたに言うことを、明るみで言いなさい…屋根の上で言い広めなさい」(マタイによる福音 10:26～27) と言われました。そして、決定的な御言葉として「魂も体も地獄で滅ぼすことのできる方を恐れなさい」とおっしゃったのです。私たちが恐れなければならないのは、人の目ではなく、神の目であります。人々の前でイエスをわたしの仲間であると証しする者を、最後の審判の時、覚えておられ、天の父の前で、この人は「わたしの仲間である」と言ってくださいます。なんという恵みでしょうか。この恵みを覚え、今はレントの時であり、私たちは「体は殺しても、魂を殺すことのできない者を恐れず」、「神のみを恐れつつ」、主の御苦しみを胸に刻み、主イエスの福音を堂々と伝え歩みましょう。